

●古河公方の歴史を学びながら公園をてくてく散歩してみましょう。

古河公方公園は、足利成氏（あしかがしげうじ）が鎌倉から古河に居を移し、古河公方として館を築いた場所です。古河公方の歴史を感じながら公園をてくてく散歩してはいかがでしょうか。

● 古河公方の始まり

■関東以北の政治を任されていた鎌倉公方の足利成氏は、補佐役の上杉憲忠（うえすぎのりただ）と対立し、室町幕府から討伐軍を差し向けられ、1455年に古河に移り、古河公方と称しました。

●公方とは？

室町時代から江戸時代にかけての公方とは、「将軍」という意味で、室町時代は足利将軍家の一族を公方様と呼んでいました。

● 古河公方館跡

■初代古河公方足利成氏が鴻巣に築いた館（鴻巣館）は、1627年に廃止されるまで、古河城の別館として「鴻巣御所」と呼ばれていました。森の中には当時の空堀・土塁の痕跡が残っており、公方館跡の石碑の西側にその面影を感じることができます。現在、本丸のあった場所は「公方様の森」と親しみを呼ばれています。



①古河公方館跡



②土塁・空堀跡

● 氏姫ってどんな人？

■氏姫（うじひめ）は、最後の古河公方、第5代足利義氏の息女で、小田原北条氏滅亡後、古河城廃却に伴い、古河城から鴻巣館に移り、豊臣秀吉によって、鴻巣周辺7カ村を安堵されました。その後、秀吉の政略によって、分家の喜連川国朝（きつれがわくにとも）・頼氏（よりうじ）と結婚しましたが、喜連川には赴かず、終生鴻巣館で過ごしました。

●足利義氏とは？

足利義氏（あしかがよしうじ）は、第5代古河公方で、第4代古河公方足利晴氏（あしかがはるうじ）の次男にあたります。



③徳源院跡



立入禁止！
落枝の危険有

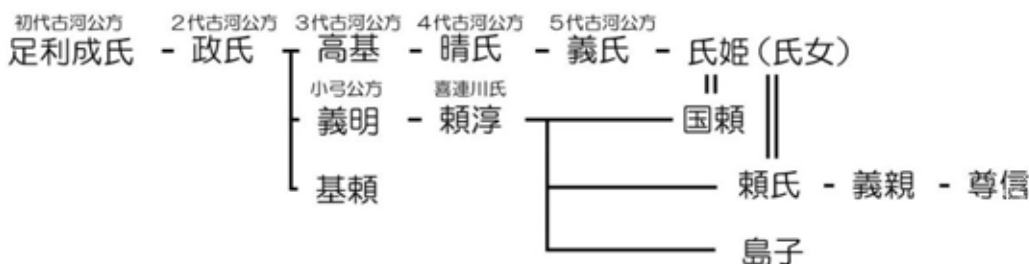
● 徳源院跡（足利義氏墓所）

■足利義氏の息女である氏姫（うじひめ）の法号から「徳源院（とくげんいん）」と称した寺院の跡です。ここは、県指定の史跡「古河公方足利義氏墓所（こがくぼうあしかがよしうじぼしょ）」となっています。正面の石碑は1926年に建てられた「古河公方義氏公墳墓」の標石、左の石囲いの中には氏姫の宝篋印塔（ほうきょういんとう）があり、氏姫の一子義親（よしちか）の宝篋印塔、七地蔵を刻んだ石幢（せきどう）、義氏の遺骸の一部が葬られたと考えられている土塚も残されています。

公園周辺は歴史がいっぱい

公園周辺には、松月院御所塚や、古河城本丸跡、少し離れますが、古河の歴史を存分に楽しめる古河歴史博物館もあります。本格的に古河公方について知りたい方は、博物館に足を運んで古河の歴史を満喫してみてもいいかもしれません。

●古河公方系図



●マスク・手洗いなど、感染症対策をしっかり行い、公園の冬を満喫してください。

●暖かい日差しに春の気配を感じます。

まだ冬の寒さが身に染みますが、一方で、時折感じる暖かな春の日差しが春の訪れを予感させます。立春とはいえ、まだまだ寒いこの時期。暖かい格好で公園を楽しんでください。

○早春に先駆けて咲く梅の花

■梅林には 25 本の梅が植樹されています。まだ若い木ですが、古河公方公園づくり基本構想に基づき、樹木医の指導のもと剪定を行っています。1 月中旬にはちらほら咲き始めていた梅の花も、そろそろ多くの花を咲かせることでしょう。早春に花を咲かせる梅は、朝がおすすめです。さわやかな朝の光を浴びて、良い香りが一面に広がります。みなさんもぜひ、梅の花・香りをお楽しみください。



①ウメ

○筑波見の丘から望む筑波山



②筑波見の丘から見える筑波山

■筑波見の丘のふもとに立つ地名碑には、「この丘の頂に立つと、天神橋の裏に、筑波山を望むことができる。」と記されています。現在、筑波山を見ることができるのは木々が落葉した冬の時期だけです。左の写真の中心あたりに目を凝らすと、木のあいだから筑波山のシルエットが見えます。みなさんも筑波見の丘に登って、筑波山を見つけてみてはいかがでしょうか。

●ふわふわなつぼみを探してみよう！

■フワフワの毛をまとったつぼみの代表的なものがコブシやネコヤナギ。寒さを乗り越えるため、春の訪れをじっと待つ姿がとてもかわいらしいですね。園内に何本かあるので、みなさんもぜひ見つけてみてください。



③コブシ



④ネコヤナギ



○天神松・胞衣(えな)の松

■公方様の森の西側、天神橋の付け根の南北に、胞衣の松・天神松がそれぞれ植えられています。冬の時期は、それぞれの松の周辺にある木々が落葉するので松の姿がはっきりわかるようになります。

胞衣とは、母の胎内にいる胎児をくるむ膜と胎盤のことで、胞衣の松は子供の成長を祈願するものでありました。また天神松は、鷹見泉石(たかみせんせき)の記した鴻巣村絵図にもその樹形までもがはっきりと描かれていて、見事な松であったことがうかがえます。はっきりした位置までは記されてはいませんが、絵図を参考に、鴻巣御所があった場所の近く植えられました。二本の松をみながら鴻巣御所があった時代を想像してみてもいいかもしれません。



⑤胞衣の松



⑥天神松

■相ノ谷橋改修工事■

2月1日～3月11日まで、相ノ谷橋の改修工事を行います。通行する際はう回路をご利用ください。ご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力の程、お願いいたします。



●立春とはいえ、まだまだ寒い季節が続きます。暖かい服装で公園を楽しんでください。

●七十二侯の第八候、『桃始笑（ももはじめてさく）』

〇花桃の季節です

●二十四節季の啓蟄（けいちつ）の次候（七十二侯の第八候）には、『桃始笑（ももはじめてさく）』とあり、桃のかわいらしい花が咲く季節です。昔は花が咲くことを『笑う』、『笑む』と表現していました。冬を乗り越えたつぼみが春の日差しでほころぶ様をみると、こちらも自然と笑顔になりますね。

公方公園の花桃は何本？

園内にはおよそ 1500 本の花桃が植えられており、一面に桃の花が咲き乱れます。その景色は、さながら桃源郷のようです。

〇花桃の種類について

●園内には、主に 6 種類の花桃が植えられています。園内の 8 割が『矢口（やぐち）』という品種で、他の花桃に比べて早く咲きます。また、『菊桃（きくもも）』と呼ばれる品種は花びらが菊の花のような形状をしています。『源平（げんぺい）』は、一つの木に紅白 2 色の花がつく、珍しい花桃です。また、空に向かってまっすぐに枝を伸ばす、『照手桃（てるてもも）』、真っ白い花を咲かせる『寒白（かんぱく）』、低い高さで花を楽しめる『寿星桃（じゅせいとう）』もあります。また、その他にも『黒川矢口（くろかわやぐち）』や、『源平しだれ』といった珍しい品種も植えられています。

〇古河桃林の歴史

●古河を代表する観光資源である桃林は、1640 年頃の古河城主であった土井利勝が、薪不足解消のために植えさせたという来歴があり、江戸時代後期には藩士も家族で訪れる桃の花見の行楽地となっていました。特に明治時代末期、「古河桃林」は関東一円に知られ、桃の名所として多くの人が花見に訪れました。1973 年の古河公方公園の事業着手にあたり桃が植えられ、半世紀ぶりに市民の記憶に残る古河桃林が復元されました。



〇3 月は、色々な植物が花を咲かせます

●春は様々な植物が開花します。冬のあいだ、毛皮のようなつぼみを持ったコブシやネコヤナギも花を咲かせます。また、早咲きの桜である、寒緋桜（カンヒザクラ）、彼岸桜（ヒガンザクラ）もソメイヨシノより早く開花します。また、足元に目を向けると、野草がちらほらと花を咲かせており、かわいらしいホトケノザやオオイヌフグリの花を見ることができます。



●花桃の香りに包まれて、春の公園をてくてく散歩してみてもいいでしょうか？

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園）〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

〇てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



●様々な花が咲き、生き物が動き出す季節

●公園を彩る多種多様な植物たち

4月5日から4月19日は、二十四節季の『清明（せいめい）』の時期です。春の季語にも使われるこの言葉は、その名の通りすべての生き物が清らかで生き生きと活動し始める季節を意味しています。

●春の野草を探してみよう

①カントウタンポポ

カントウタンポポの特徴

日本固有の在来種ニホンタンポポのひとつで、外来種のセイヨウタンポポと違い、春にしか咲かず、総苞片（そうほうへん）が反り返らずに花を包んでいるのが特徴です。



タチツボスミレの特徴

日本国内の山間や海岸に自生している、丸いハート形の葉が特徴的なスミレです。花の時期は4月から5月で、左右対称の美しい花を咲かせます。

②タチツボスミレ



③ムラサキサギゴケ

ムラサキサギゴケとは？

園内のやや湿った場所に生えていますが苔の仲間ではありません。白い品種のサギゴケの花の形がサギの飛び立つ姿に似ていることから名付けられたそうです。



シャガは外国からきた花

人里近くの山林のやや湿った薄暗い場所に咲くシャガは、室町時代に日本に渡来し野生化して帰化植物となりました。林下で青白く咲く姿は神秘的な印象を受けます。

④シャガ



●春の風物詩、八重桜（ヤエザクラ）

ヤエザクラは古くから春の風物詩として日本人に親しまれてきました。多くの品種が存在し、花の時期はソメイヨシノの開花時期から1～2週間程度遅く、ソメイヨシノが散る頃にヤエザクラの開花が始まります。



⑤ヤエザクラ

●花が咲き生命力満ち溢れるこの時期に、公園を散策して生き物の力強さを感じてみてはいかがでしょうか。

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

●てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



●鮮やかな藤の花

4月後半から藤の花が咲き始めます。その花の甘い香りに誘われて、様々な昆虫が集まってきます。

フジの花は、万葉集で27首に登場し、昔から風情のある花として人々に親しまれています。園内のあちこちに藤棚が設置され、また、木々の間に伝っているダイナミックな個体もあり、様々なフジの姿を楽しむことができます。



⑥フジ

●伝統的なニフトコの使い方

ニフトコは樹皮や枝を入浴剤として使用したり、花を黒焼きにしたものや枝葉を煎じたものをニフトコ茶として飲むといった伝統的な風習が、日本だけではなく世界各地に存在します。春に白い小さな花を咲かせ、夏に赤い実がなります。



⑦ニフトコ

外出が気持ちいい、散歩には最適の季節です。

制限が解除されましたが、感染症対策をしっかりと守って公園内での散策を楽しんでください。

○キリは成長が早く、有用な木材

■キリは成長が早く、生命力が強いため、切ってもすぐ芽がでえます。切っても切ってもキリがないといわれるのはそのためです。また、軽量で柔軟かつ、木目がきれいなので高級木材として重宝されています。江戸後期、安政の大地震後、桐でできた筆筥は耐火性が強く、洪水時には浮いて中身を守ってくることがわかり、よく売れるようになったそうです。

キリは神聖な木？

◆キリは鳳凰の止まり木として古代中国の神話に登場します。鳳凰の出現は、「徳の高い天子による平安な治世」を意味するため、古代中国とつながりの深い当時の日本でも、その止まり木であったキリを神聖なものとして考えるようになったのではないのでしょうか。



①キリ

○目洗弁天池の杜若(カキツバタ)



③カキツバタ

■令和2年11月、目洗弁天池にカキツバタを植えました。その翌年は植えたばかりだったせいか花はつきませんでした。今年、4月末から、ついに、きれいな紫の花を咲かせました。

カキツバタと日本文化

カキツバタの高貴な紫色と形は、古くから陶磁器などのデザインに取り入れられ、日本を代表する芸術家である尾形光琳の屏風絵にも描かれるほど日本文化に深く根付いています。

○オオデマリの変色

オオデマリは5月初旬に、その名の通り、丸い手毬のような形に咲きます。咲き始めが緑色ですが、徐々に白い色に変化していきます。



まだ緑色の状態の
オオデマリ



④白くなったオオデマリ

アジサイに特徴が似ているので、よく間違える人もいます。アジサイはアジサイ科アジサイ属で、オオデマリはレンプクソウ科ガマズミ属なので、全く別の植物なのです。

○ユリノキの花は初夏の季語



②ユリノキ

■ユリノキは北アメリカ原産の落葉広葉樹の高木で、現産地では45m～60mに達するものもあるといわれます。英語では、"tulip tree" チューリップツリーなどとよばれており、その名の通り花がチューリップのような形をしています。5月に花を咲かせるため、今の時期がちょうど見頃です。



スズメバチに注意！

○色鮮やかなナツグミの実

南側の園路沿いに、茱萸坂(ぐみざか)と呼ばれる地名碑があり、5月下旬ごろからナツグミが実り始めます。ナツグミは東南アジア原産の落葉低木で、観賞用、食用として、古くから親しまれてきました。色鮮やかなかわいらしい赤や黄色の実がついているので、南側の園路を通った際はぜひ茱萸坂にお立ち寄りください。



⑤ナツグミ

○梅雨の時期ならではの見どころをご紹介します。

○梅雨の晴れ間によく映える、大輪の大賀ハス

■毎年6月下旬になるとハス池には「大賀ハス」が咲き始めます。1975年に千葉市から頂いた大賀ハスの根2本を大切に育て、現在は3000㎡のハス池を埋め尽くすほどになりました。大賀ハスは別名「古代ハス」とも呼ばれ、通常のハスより大きな花を咲かせます。咲いている花に近づくと、太古から変わらぬ高貴な香りを楽しむことができます。

●大賀ハスとは？

千葉市で約2000年前の地層から蓮の実が3個発見され、そのうち1個の発芽に成功。発掘にあたった大賀一郎博士の名にちなみ、「大賀ハス」と名付けられました。



①大賀ハス

●ロータス効果とは？

ハスの葉は「泥より出でて泥に染まらず」といわれるように、その表面が水をはじく構造になっています。葉に落ちた水滴が表面の汚れや昆虫をからめとり、ハスの表面を清潔な状態に保つ自浄機構が備わっています。この仕組みをロータス効果といい、ヨーグルトのアルミの蓋の裏側など、私たちの生活の身近なところで応用されています。

○アジサイの七変化（しちへんげ）

■アジサイは七変化（しちへんげ）と呼ばれるように、咲き始めから徐々に色が変化する花として知られています。はじめは黄緑色で、やがて青くなり、赤くなり、最後は緑で終わる、というように、時間と共に花の色が変化します。アジサイ自身が持つアントシアニンという成分で赤色になりますが、ここに吸い上げる土の成分が加わることで花の色が複雑に変化するんですよ。

●アジサイと土壌の関係

アジサイは吸い上げる土の成分によって花の色が変化します。土壌が酸性なら青色、アルカリ性なら赤色です。日本の土壌は酸性が多いので、大体のアジサイが青色ですが、コンクリートなどアルカリ性の物質の近くでは赤色に変化します。リトマス試験紙とは逆の反応になりますね。



②アジサイ

○熱中症に注意！蒸し暑い時期なので、水分をしっかり摂って体調管理に気を付けましょう。

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索



スズメバチに注意！

○ヘメロカリスってなに？

■6月下旬に見ごろを迎えるヘメロカリスはキスゲやノカンゾウなどを品種改良したものです。古河公方公園のヘメロカリスは、同じ古河市内にある公園ネーブルパークから株分けしたもので、時期になると黄色や赤など様々な色の花を楽しむことができます。



③ヘメロカリス

○日陰にひっそり咲く野草ユキノシタ

■湿気の多い場所に生える植物で、白くてかわいらしい花を咲かせます。また、丸くて縞模様のある特徴的な葉を持ちます。食用として、また薬草として昔から利用されていたそうです。



④ユキノシタ

●梅雨があけて、公園の夏が始まります。

●つるつるした樹皮のサルスベリが咲き始めます！

●サルスベリは百日紅（ひゃくじつこう）という別名のとおり、7月頃から10月くらいまで花を咲かせています。開花した花それぞれは一日で終わってしまう一日花ですが、次々につぼみが開花するので約100日のあいだ花を楽しむことができます。



サルスベリの樹皮について

サルスベリの樹皮は、古くなると剥がれ落ち、幹は常にツルツルの状態を保っています。名前にもある通り、おサルさんが手足を滑らせてしてしまいそうなくらいツルツルです。また、樹皮が人の肌に似ていることから、人の生気を吸って生きているとの言い伝えもあるそうですよ。なんだか怖いですね



●公園を彩る、7月に咲く花々



② ミソハギ



③ ノウゼンカズラ



④ ヤブミョウガ



⑤ カワラナデシコ



⑥ ハンゲショウ



⑦ オニユリ

●ハスの果托（かたく）の変化

●ハスの果托は花びらが落ちてから、時間と共に変化していきます。中の種が成長するとともに果托も大きくなり、種を落とすために穴が空きます。やがて果托がうなだれてくると、中の種が風や重力で自然にポトリと水に落ちるのです。



花びらや雄しべがなくなり、つるりとした果托が残ります。



雌しべがあった根元に穴が開き、中の種子が見えてきます。



果托が乾燥し、種が落ちる準備ができました。



⑧ 大賀ハス

ハスの果托はハチの巣みたい？

・子どもたちが、蓮の果托をみて、「ハチの巣みたい！」とびっくりしている光景をよく目にします。ハスの別名「ハチス」とは、その名の通り、果托がハチの巣のようだというところからその名がつけられたのだそうです。（諸説あります。）



ハスの果托

管理事務所にて
好評販売中！！

●こまめに水分補給をしながら、日陰などを利用して、熱中症に気を付けて公園散策を楽しんでください。

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣 399-1 電話 0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●木陰を利用して、ゆっくり散歩してください。

今年の夏は暑くなりそうです。散歩するときは無理をせず、水分をこまめに摂ってください。

●夏の公園は昆虫の宝石箱や～っ！

●公園には水辺や雑木林など、昆虫が暮らす場所がたくさんあります。お散歩がてら、童心に返り、普段は見逃してしまう昆虫を探してみたいはいかがでしょうか？



①カブトムシ



②ノコギリクワガタ



③アオドウガネ



④ウチワヤンマ



⑤ナツアカネ



⑥ハグロトンボ



●クビアカツヤカミキリの駆除にご協力ください



★クビアカツヤカミキリ

●左の写真は、クビアカツヤカミキリといって、特定外来生物に指定されている昆虫です。園内でも2019年から確認されており、駆除を行っています。公園を散策中に発見した場合にはお手数ですが、踏みつぶすなどして、可能な限り捕殺し、管理事務所までお知らせください。

現在このクビアカツヤカミキリは、外来生物法という法律で、生態系等に係る被害の防止のため、駆除の対象となっており、生きたまま移動することが禁じられています。主にソメイヨシノやハナモモなど、バラ科の樹木を食害し、枯らしてしまいます。このため、ハナモモが多いこの公園では特に注意を払い駆除を行っています。ここ数年、全国的に被害が広がり、隣接する県で問題になっています。公方公園の花桃を守るためにも、さらに、近隣のエリアへの被害を食い止めるため、ぜひ皆様のご協力をお願いいたします。

古河公方公園管理事務所：0280-47-1129

●盆花としてのミソハギとオミナエシ



⑦ミソハギ

■ミソハギは、盆花としてよく使われています。そのためボンバナ、精霊花（ショウリョウバナ）などと呼ばれることもあります。湿地や田んぼの畔（あぜ）に生えていて、茎の断面が四角い特徴を持っています。公方公園でも、水辺や湿地になっている場所で見ることができます。

一方オミナエシも盆花として使用される植物です。こちらは秋の七草になっており、ススキやキキョウなどと共に観賞用の花として古くから親しまれています。



⑧オミナエシ

どちらの植物も人里にかかわりのある植物で、季節感のある人々の暮らしに深く根付いた植物なのです。

■秋の七草の覚え方

オミナエシ、ススキ、キキョウ、ナデシコ、フジバカマ、クズ、ハギ

「お好きな服は？（オスキナフクハ）」と覚えましょう。

●感染症対策の徹底にご協力いただくとともに、熱中症にはくれぐれもご注意ください。

●暑さが和らいだ公園で、存分に散策を楽しんでください。

感染症対策をしっかりと行い、秋の公園を思う存分楽しんでくださいね！

○やせた土地でも育つハギ

●ハギは、やせた土地でも育つ植物です。ハギの仲間の中には砂地の緑化や斜面の土留めなどに使われるケースもあるようです。



マメ科の植物と根粒菌

■ハギに代表されるマメ科の植物は、その根に根粒菌を寄生させています。この根粒菌とは、ハギなどの宿主に寄生し、根に根粒というコブ（根粒）を作り出します。そのコブは、大気中の窒素を吸収し、宿主となる植物の栄養に変換し、宿主の成長を助けます。こういった共生関係がハギのやせた土地の育成を可能にしているのです。

根粒菌とSDGs

■農業が飛躍的に進歩した要因の一つが化学肥料です。化学肥料の特徴の一つに、窒素を地中に固定する性質がありますが、その一方で、製造過程で大量の二酸化炭素と一酸化炭素を空气中に排出し、地球温暖化の要因の一つになっています。また、使用された化学肥料によって河川が富栄養化してしまうケースもあります。しかし、根粒菌はもともと根に窒素を固定する能力が備わっているため、温室効果ガス削減や河川の生態系保全の助けになるかもしれませんね。



○日本では重宝され、海外ではやっかいものである「ススキ」

●万葉集にも詠まれるなど、古来より日本人に親しまれてきた秋の風物詩であるススキ。昔はススキのことを茅（カヤ）とよび、建物の屋根（茅葺屋根）や家畜のえさとして利用していました。集落のそばにはススキを育てていた茅場があり、定期的に刈り取る作業が行われていました。また、ススキは草原の遷移では最終段階にあたる植物であり、放っておくと雑木林になってしまいます。そのため、箱根の仙石原や大分県の久住高原などでは遷移が進まないよう定期的に野焼きを行い、ススキの草原を管理しています。しかし、そういったススキを利用する文化のない北米では、ススキが侵略的外来種として猛威を振るっているそうです。植物というのは、その土地と人々との関わり方によって善にも悪にもなってしまうのです。難しい問題ですね。

○ヒガンバナの変わった生態

●毎年この時期になると、園内のあちこちで彼岸花が咲き始めます。秋になると土から花をつける花茎がまず伸びてきて、花を咲かせます。花が終わると次に葉が生え始めます。その状態で冬を越し、春になると葉が枯れ、夏は休眠し、秋に再び花を咲かせます。似たような生態を持つ植物に、コルチカム（イヌサフラン）があります。



●秋の散策で気分をリフレッシュ！夏の疲れを吹き飛ばし、心も体も健康になりましょう。

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

散歩に最適な季節がやってきました！

●いろいろな使用目的があるキンモクセイ(金木犀)

近年アロマ業界でヒットしているキンモクセイの香り。特徴的な強い香りが遠くまで届くことから、古くから『千里香』とも呼ばれていました。日本では、芳香剤として親しまれてきた香りですが、原産地の中国では、食用として砂糖漬けやリキュール、また、桂花茶(けいかちゃ)という中国茶にして飲む風習まであります。また、生薬としても使われているそうですよ。



①キンモクセイ

●あまーいっ！カツラの香り、その正体は？



②カツラ

駐車場から民家園に行く途中に、甘い綿菓子のような香りがする場所があります。その匂いのもと『カツラ』という樹木です。葉が黄色くなるにつれ甘い香りが強くなります。その甘い香りの元は、マルトールという物質で、カラマツの樹皮にも含まれており、食品添加物にも使用されるそうです。カツラの葉に関していえば、乾燥した葉の方が強いにおいを発します。時期になると木の近くを通るだけで匂ってくるほどです。また、葉を乾燥させたものを粉にして、抹香(まっこう)として使用することもあります。このことから、『コウノキ(香の木)』とも呼ばれています。カツラの名前の由来は、一説によると、『香りが出る＝香出(かつ)』から、『カツラ』という名前になったそうですよ。

■スズメバチに要注意！

9月から11月にかけて、スズメバチが活発になる時期です。巣を見つけた方は、近寄らず、管理事務所までご一報ください。



TEL: 0280-47-1129
古河公方公園管理事務所

●オニグルミは昔から食べられていた？

オニグルミの実(種)は縄文時代から食用として利用されていました。それは動物たちにとっても同じで、リスなどのげっ歯目の貴重な食料として重要な役割を果たしていました。また、それはオニグルミにとっても都合がよく、リスやネズミがその実を母樹から離れたところまで運んで地中に埋める習性があり、その一部が発芽することでオニグルミが子孫を残す手助けをしています。また、オニグルミの木は川沿いにあり、落ちた実が水に浮く性質を利用して、川辺に生息域を拡大させているようです。



オニグルミの種



③オニグルミ

※立入禁止
落枝に注意



※立入禁止
スズメバチに注意

モミジバフウ
の実

●モミジバフウって？

モミジバフウは漢字で「紅葉葉楓」と書きます。紅葉する楓というその名通り、秋になると色が変化します。特に、紅葉の初期は、グラデーションのように緑→オレンジ→赤→紫と変化し、とても美しい表情を見せます。また、紅葉の陰で実も熟します。その実はトゲトゲしたボール状で、クリスマスリースに好んで使用されます。クリスマスの時期が来たら、みなさんもモミジバフウの実を使用して、クリスマスリース作りを楽しんでみてはいかがでしょうか？



④モミジバフウ

●引き続き感染対策をしっかり行い、秋の公園をてくてく散歩して、楽しみましょう！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●秋本番、色づく秋の木々を楽しみましょう！

朝夕の寒さが身に染みる季節になりました。秋の公園を散歩して、気温の変化に負けない体を作りましょう！

○イチヨウは防火の役割を担っていた？

●紅葉より一足早く、黄色く染まるのがイチヨウの木。黄葉した葉がとても美しく、日の光に当たるとまさに黄金色に見えるのです。さて、そのイチヨウ、樹皮が厚く、コルク質で気泡があるため、耐火力があるとみなされており、実際、江戸時代に植えられたイチヨウが、関東大震災のときに、延焼を防いだとも言われています。実をギンナンとして食べたり、防火の働きがあったり、そして秋には黄葉を楽しんだり、イチヨウは人の暮らしに深く根付いていたのかもしれない。



①イチヨウ

●ナンキンハゼの紅葉



②ナンキンハゼ

河童沼のほとりに生えるナンキンハゼは、秋になるときれいに紅葉します。とくに黄色、オレンジ、赤のグラデーションの美しさは息をのむほどです。また、その種子からは、烏臼油（うきゅうゆ）と呼ばれる油を採ることができ、石鹸やろうそく、薬（腫物、皮膚病）、絵画やニス、乾燥剤などにも使われるそうですよ。

●セイトカアワダチソウってなに？

●秋になると、野原を埋め尽くす黄色い花に見覚えありませんか？一見きれいなこの花は、実は在来の植物にとって大きな脅威となっているのです。その名はセイトカアワダチソウ。大きく分けるとキクの仲間。種と根で増えるため、戦後、観賞用としてアメリカから持ち込まれ、日本国内で爆発的に増えたといわれています。

■ススキ vs セイトカアワダチソウ

よくススキの野原にセイトカアワダチソウが侵入し、ススキにとって変わったという話を聞きます。しかし、場所によって、特に土の成分などによってススキが逆転することがあるそうです。セイトカアワダチソウは、アレロパシー物質（システヒドロマトリカリエステール）を生成して周囲の植物の成長を阻害することで有名です。そのためススキの野原にも容易に入り込むことができます。しかし、リンが少ない土地、強酸性の土地、乾燥した土地では弱く、すぐにセイトカアワダチソウはススキなどの多年草にまけてしまうとのこと。一筋縄ではいかないのが自然の厳しさなのかもしれません。



③セイトカアワダチソウ



■紅葉を見るのにちょうどいい時間帯は？

紅葉を見るのに適した時間帯は早朝です。赤い葉自体は、葉を落とす寸前の状態なので、端的に言えば枯れ始まっている葉です。すなわち、夜露に濡れて潤っている時間帯がベスト。モミジなどは、日中になると、葉が乾燥し、チリチリになってしまいます。ご注意ください。

●サザンカ（山茶花）の季節です

秋の終わりと冬にかけて花期を迎えるサザンカ（山茶花）。漢字名の通り、お茶の葉と同じツバキ科ツバキ属の樹木です。赤や白などいろいろな品種があり、種類によっては咲く時期も少しずれがあるそうです。冬の季語にもなっているサザンカですが、開花時期に寒気にさらされると花が落ちてしまうこともあるそうです。特に原種のサザンカに至っては、北限が九州・四国地方であり、寒さに強いわけではないそうですよ。意外ですね。



④サザンカ

●ひんやりした秋風を受けながら、紅葉した公園をてくてく散歩してみたいはいかがでしょうか？

【発行】（一財）古河市地域振興公社 古河公方公園（古河総合公園） 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索

●冬の公園を散策すると、いろんな発見があるかも！？

寒くなると、冬鳥が飛来します。また、秋まで茂っていた葉が落ちると、いつもは見えなかった景色が姿を現します。

●黒くてツルンとした見た目のかわいらしいオオバン

■冬になると、来園者から「あの鳥はなんていう名前ですか？」とよく聞かれるのがオオバンという鳥です。群れで行動し、冬から春にかけて、園内のあちこちで姿を目にします。陸上をトコトコと歩きながら草をついばんでいる姿がとてもかわいらしい鳥です。



①オオバン

●カルガモは冬鳥じゃない？



②カルガモ

■年間を通じてみることのできるのがカルガモです。とはいえ、冬になると公園内にいる個体数がいつの間にか増えています。ここ数年、夏が思いのほか暑いため、どこか涼しい地域へ避難しているのかもしれませんね。

●生きた化石？メタセコイアの不思議

■メタセコイアは、日本では化石として発見されていたため、絶滅したと考えられていました。しかし、1946年、中国の湖北省で自生しているものが見つかり、現生している種であることがわかったのです。



③メタセコイア

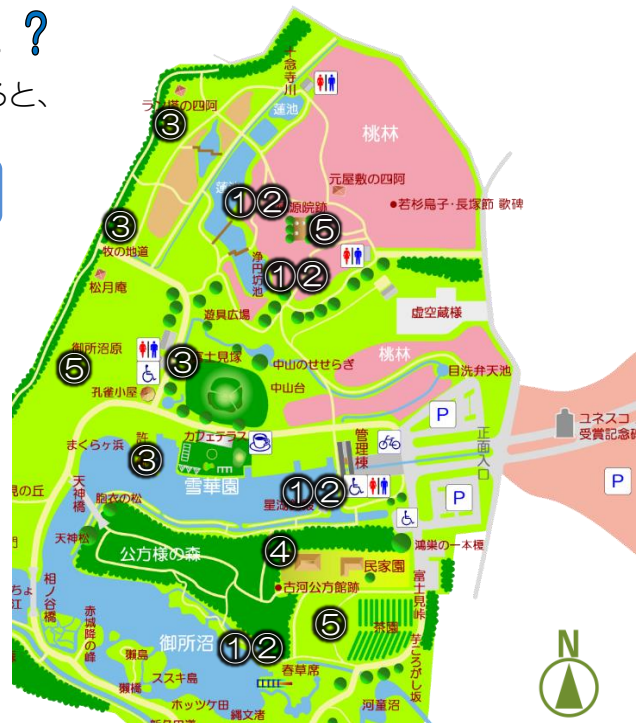
●メタセコイアは針葉樹ですが、常緑のスギやヒノキと違い、秋になると紅葉し、冬になると落葉します。

●冬になると姿を現す筑波山

■12月、筑波見の丘から天神橋の方向をみると、春から秋の間は見る事ができなかった筑波山の姿を目にすることができます。落葉後の風景も楽しんでみてはいかがでしょうか。いつもと違う風景に出会えるかもしれませんね。



木々の間から
筑波山がみえます。



●公方様の森の林床にある赤い実って何？

■毎年冬になると、公方様の森の林床に赤く美しい実のなる植物を見かけます。この植物はヤブコウジという名前で、別名ジューリョウ（十両）とも呼ばれています。このように、赤い実のなる植物は、ほかにもマンリョウ、センリョウ、ヒャクリョウなどというように縁起の良い「金生樹」として位置づけられています。その



④ヤブコウジ

ためこのような赤い実のなる植物は日本庭園などに使われるほか、正月飾りとしても用いられています。

●ツグミって鳴かないの？

■ツグミは秋になるとシベリアから渡ってくる代表的な冬鳥です。胸を張るように木の枝にとまる姿はとてもしりしく見えます。そんなツグミですが、その名の通り、渡り先の日本では全く鳴きません。一体どんな声でさえずるのでしょうか。とても気になるところです。



⑤ツグミ

●冬の公園にも生き物がいっぱい。暖かくして散歩を楽しんでくださいね！

【発行】(一財)古河市地域振興公社 古河公方公園(古河総合公園) 〒306-0041 茨城県古河市鴻巣399-1 電話0280-47-1129

○てくてく情報は公式ホームページからもダウンロードできます。

古河公方公園

検索